

科学の不思議に触れる 子ども科学フェスティバル



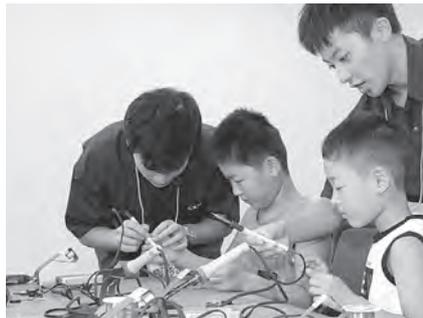
2019子ども科学フェスティバルは8月17日、市役所スポーツアリーナそうま、千客万来館、市民会館などで開催され、約1、400人が参加しました。

子ども科学フェスティバル実行委員会、市、教育委員会が主催し、今年が初の開催。

開会式で青田悠里さん（大野小1年）と遠藤圭悟さん（中一小2年）が開会宣言を行って同フェスティバルが始まり、市内の高校生や企業などによる科学実験やものづくり体験などが行われました。

参加者は、はんだ付けによ

る電子回路をつなぐ実験やヨウ素を使って米の新鮮さを調べる実験などを行ったほか、分光シートを使った万華鏡の作製など、多種多様な体験をし、一日を通して科学に触れることができました。



国際コミュニケーション シヨンを発揮 英語弁論大会



相馬地方中学校英語弁論大会は8月27日、市民会館大ホールで開かれ、市内外の中学校から代表生徒30人が参加し、自身の英語力を競い合いました。

県中学校教育研究会相馬支部英語部の主催、今年で68回目。

英語の文章を暗記してスピーチを行う暗唱の部と、自身の思いや情熱などを英語でスピーチする創作の部の2部構成で開催されました。

した。

子どもたちに夢を

スポーツ笑顔の教室

スポーツ笑顔の教室は、各スポーツの分野で活躍した方を夢先生と位置づけ、体育館で子どもたちと一緒に体を動かす「ゲームの時間」と教室で夢先生の体験談をもとに夢を持つことの素晴らしさを伝える「夢トークの時間」の2部構成で、スポーツこころのプロジェクトの主催。

【8月30日・大野小】

商社で働きながら、平成27年にライトフライ級チャンピオン（WBC）に輝いた元ボクシング選手の木村悠さんが夢先生として訪れ、大野小学校の5年生26人を対象に開催されました。

木村先生は、厳しい練習なども目標を持って頑張ってきたことや、努力は自信につながり、その自信が辛い時でも支えとなって夢を諦めなかったことを話しました。



【9月5日・中一小】



福島県出身で40メートルハードルの陸上選手として活躍した秋本真吾さんが夢先生として訪れ、中村第一小学校の5年生59人を対象に開催されました。

秋本先生は、これまで挫折したことや、そこからどうやって立ち直ったのかを話し、「チャレンジすることで苦手なことも好きになるかもしれない。失敗を恐れずにどんなことにもチャレンジしてほしい」と児童らに伝えました。

独創的なアイデアをたたえる 市発明展表彰式



第52回市発明展の表彰式は9月11日、振興公社振興ビル7階（市民ギャラリー）で行われ、入賞者が出席しました。

今回の発明展には、160点の応募があり、日常生活で有益か、努力の跡が見えるかなどが審査され、市長賞など17点が選ばれました。表彰式では入賞者一人一人に賞状と記念品が手渡され、入賞した子どもたちをたたえました。

受賞した作品17点は、11月16日から17日まで郡山市で開かれる第65回福島県発明展に出品されます。

【入賞者は以下のとおり】

- 相馬市長賞＝▽村井果歩（八幡小6年）ママも楽ちんキッズつり革▽荒川和奏（桜丘小1年）ずれない手ぶくろ▽横山亜美（飯豊小5年）はやがわきハンガー
- 福島県発明協会会長賞＝▽稲垣羽南（桜丘小3年）すっぱり空気手ぶくろ
- 相馬市教育委員会教育長賞＝▽篠山朋希（中一小4年）ぬげないスリッパ▽横山実（桜丘小5年）折れるハンガー▽渡邊梨花（磯部小5年）角度が変えられる！のびーるまごの手
- 相馬商工会議所会頭賞＝▽田中連（中一小6年）ザル洗い手袋▽久田楓花（中一小6年）落ちない筆箱▽大野愛奈（桜丘小1年）背中のまん中をゴシゴシ
- 福島民報社賞＝▽村井紗菜（八幡小3年）どこでもころころ足うらマッサージ▽渡部美羽（中一小6年）ビニール袋たたみ機▽新井魁斗（中二小5年）げた箱
- 福島民友新聞社賞＝▽但野悠月（中一小6年）つえとかさ▽佐藤權地（磯部小4年）モップ立て▽花澤幾咲（中一中1年）印鑑マットセット
- 河北新報社賞＝▽佐藤侑慶（桜丘小5年）下じょーぎ
- 学校賞＝▽中村第二小学校▽桜丘小学校

ボクシング全日本王座に輝く

相馬ボクシングクラブに所属する新井海結さん（中二小6年）は9月9日、市役所を訪れ、立谷市長に全日本大会での優勝を報告しました。

新井さんは、6月に仙台で開催された代表選考会を勝ち抜き、東日本代表となりました。

その後8月24日に開催された第6回全日本アンダージュニアボクシング王座決定戦小

新井海結さん

学生女子40キロ級に出場し、西日本代表選手を判定の末に破り、見事王座に輝きました。

新井さんは「最後まで諦めなかったことが優勝につながりました。がんばって練習してきてよかった」と優勝の感想を述べ、立谷市長は「全日本大会での優勝おめでとう。将来がとても楽しみです」と賞賛の言葉を贈りました。



頂点目指して熱戦 パークゴルフ県選手権大会

第15回福島民友新聞社杯パークゴルフ県選手権大会は8月25日、相馬光陽パークゴルフ場で開催されました。

県内のパークゴルフプレーヤー210人が出場。

競技は、本丸Cと二の丸A・B、三の丸A・Bの5コース、45ホールストロークプレーで行われ、25人がホールインワンを達成するなど、参加者たちは熱戦を繰り広げました。



相馬高校OBと有志の芸術家 寄付ありがとう

相馬高校OBの鈴木龍郎さんは8月21日、市役所を訪れ、教育復興子育て基金に寄付しました。

鈴木さんは日本画家として活躍されており、震災以降、有志とともに「相馬高校OBとその仲間、芸術家たちの東日本大震災支援展」を開催。被災した子どもたちの生きる力をはぐくむ事業への活用を目的に、収益の一部などを堀川利夫教育長に手渡しました。相馬高校OBと有志の芸術

家による継続した支援は今回で7度目です。



国体を目指して熱戦

第46回東北総合体育大会ソフトボール競技は8月23日、25日、相馬光陽ソフトボール場で開催されました。

大会は令和元年度国民体育大会東北ブロック大会も兼ねており、成年男女、少年男女の4部門で東北6県が対戦。日程の3日間は天候にも恵まれ、選手らは優勝を目指して必死にプレーし、大きな声援がグラウンドに響き渡る中、熱戦を繰り広げました。



ソフトボール競技

災害の教訓を伝える 磯部小学校 防災教室



防災教室は8月29日、磯部小学校で行われ、同小学校の5・6年生18人が参加しました。防災教室は、兵庫県淡路高校の生徒5人を講師とし、同校の生徒との交流を通して今後の災害対策を考えることを目的に開催。

同校の生徒らは、阪神淡路大震災の教訓を忘れず後世につないでいくための語り部活動を行っており、その一環として防災教室に訪れました。淡路島の紹介や防災に関する穴埋めクイズなどが行われた後に、非常持ち出しのため防災ポシエットを作製しました。

相馬産の梨を召し上がれ JAふくしま未来

今シーズン採れ立ての梨が9月4日、立谷市長に贈られました。

訪れたのはJAふくしま未来の濱田賢次代表理事専務、山田秀晴そうま地区役員代表、西幸夫相馬地区本部長、八巻吉邦そうま営農経済部長の4人。

濱田代表理事専務は「今年も地元が生産者が丹精込めて作った梨ができました。ぜひ多くの方に味わってもらいたい」とあいさつしました。



練習の成果を披露 県下小・中学校音楽祭第1部「合唱」



第73回福島県下小・中学校音楽祭第1部「合唱」相双地区大会は8月21日、市民会館で開催され、出場した桜丘小学校合唱部が歌声を披露しました。

同合唱部は3年生から6年生の児童22人で構成され、課題曲「わたしはこねこ」と自由曲「ありがとう野菜」の2曲を歌い、会場に訪れた保護者からは美しいハーモニーに大きな拍手を送っていました。

災害に備える

そうまジュニア防災マスター



そうまジュニア防災マスターは8月31日、飯豊小学校で行われ、市内の親子ら21人が参加しました。

防災の体験をおとして、自然災害に遭遇した際に自らの命を守るための知識や技能を学び、防災マスターとして今後の生活に役立てることを目的に開催。

参加した親子らは、竹竿と毛布を使って簡易的な担架を作る訓練や、消火器やAED

の取り扱い訓練などを真剣に取り組んでいました。



将来の自分を考えるきっかけづくり サマースクール

東京大学のほか3大学の学生によるサマースクールは8月19～21日、中村第二中学校で開催され、同中学校の生徒約60人が参加しました。

サマースクールは、教職志望の学生を中心とした学習支援活動で、勉強やレクリエーションなどの交流を通して、子どもたちが将来の自分を考えるきっかけをつくることを目的に開催され、東京大学、青山学院大学、東京学芸大学、慶應義塾大学から17人の学生が訪れました。

参加した生徒たちは訪れた学生と一緒に夏休み中の宿題や自由研究、1学期中の学習範囲の復習などを行い、英語の発音や数学の問題の解き方、作文のコツなど、一人一人に合った学習支援を受けました。

生徒たちは分からないところを積極的に質問するなど、有意義な時間を過ごしました。



世界を目指す

スポーツ大会出場報告

スポーツ大会出場報告は8月30日、市役所で行われ、全国大会出場を決めた選手らが立谷市長に報告しました。

訪れたのは、第22回福島県スポーツチャンバラ選手権大会で優勝し、第45回全日本選手権大会兼世界選手権大会日本代表選考会へ出場する武田泰彦さん（長剣の部）と武田泰輝さん（小太刀の部）。

立谷市長が激励し、武田泰

輝さんが大会への抱負を述べました。



農業の復興に尽力

復興・創生特別賞受賞報告

復興・創生特別賞受賞報告は8月30日、市役所で行われ、合同会社飯豊ファームの役員らが立谷市長に受賞を報告しました。

訪れたのは、竹澤一敏代表役員、小島良金役員、小野内善彦役員の3人。

受賞は、同社が飯豊地区の津波被災地農地の復旧や営農維持のために活動しており、その活動が被災農地の営農再開のモデルとなっていることが評価されたものです。